Osaka University Knowledge Archive

Title	ワークショップ 異言語環境において日本近代小説を読む 太宰治『黄金風景』を例に : タイ語
Author(s)	カナパット, ルーンピロム
Citation	多言語翻訳 : 太宰治『黄金風景』. 2012, p. 66-67
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/32743
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

ワークショップ 異言語環境において日本近代小説を読む - 『黄金風景』を例に -
タイにおける太宰治の翻訳状況・タイ語へ翻訳

大阪大学博士後期課程三年　　ルーンピロム　カナパット

１、タイにおける日本近現代小説の翻訳の状況

日本近現代文学の認知度：
平松秀樹「タイにおける日本文学・文化及びポップカルチャー受容の現状と研究―「ミカド」「蝶々夫人」から〝ブライス〟人形まで―」（『立命館言語文化研究』２１巻３号　二〇一〇年）

「二〇〇〇年までは一部の研究者や好事家によって趣味的に為されてきたのみであった。かろうじて一般的に知られているのは、ながらくカワバタ、ミシマ程度であった。」

太宰治作品のタイ語訳版：
『太宰治短編集』（チュラーロンコーン大学出版、一九九八年）
（国際交流基金日本文化センター図書館のデータベースによる）
その他、『女性徒』『待つ』『ヴィヨンの妻』　　（インターネット検索による）

２、『黄金風景』の翻訳の問題点

２・１　言葉の問題

① 「そのころのこと、戸籍調べの四十に近い、痩せて小柄のお巡りが…」
＞　タイの警察は戸籍調べの仕事を担当していない。「お巡り」と直訳したら、誤解を招く可能性がある。

② 「「とんでもない。」お巡りは、なほも楽しげに笑ひながら、「小説をお書きなさるんだつたら、それはなかなか出世です。」」
＞　タイでは、作家になったことは出世するわけではないと思う。

③ E「私は玄関の式台にしゃがんだまま」
＞　タイの家には玄関がない。

④ E「こんどあれを連れて、いちどゆつくりお礼にあがりませう。」

“จะเป็นไรไหมครับ ถ้าคราวหน้าผมจะพาเธอมาขอบคุณสักครั้ง” →〈Wai＋Kob kun？〉

「こんどの公休には、きつと一緒にお礼にあがります。」

“วันหยุดคราวหน้าจะมาขอบคุณด้วยกันแน่นอนครับ” →〈Wai＋Kob kun?〉

＞　「お礼」という言葉はタイ語で一般的には「kob kun」と言う。しかし、「お礼にあがる」という表現の場合、「Wai　kob kun をする」と訳したほうが意味的には近いと思う。（Wai は「合掌してお辞儀をする」、Kob kun は「感謝する」を意味する。）ところが、「お礼にあがる」を「Wai　kob kun をする」と訳すると、お巡りは「タイのお辞儀をする」という意味になってしまうので、「Wai」を加えないことにした。

⑤ F「竹のステックを持つ」
＞　語り手の「私」は体が不自由になったかという誤解を招く可能性がある。

⑥　I「けわしい興奮が、涙で、まるで気持ちよく溶け去つてしまふのだ。」
＞　語り手の感情を、読者にうまく伝えられるかどうか。

→ ①③⑤の場合は、注を付けて解説を加えたら、問題が解決できる。
⑥のような感情描写の翻訳の問題を解決する方法はあるのか。

２・２　文章の構造

①　タイ語は日本語のように、単語、文章の区切りがない。そのため、「台所で、何もせずに」「一昨年、私は家を追われ」で始まる文章のような長文が続くと、読みにくい。

②　タイ語では、主語は場合によって省略できるが、「と言いました」や、「と答えました」などの動詞を入れないと、文章が不明確になる。